

## 2015年 東京マラソン を走って

(株)千町村建築研究所 柴田 孝行

2015年2月22日 東京マラソン 完走しました ☺  
長距離走は大嫌いな私ですが、東京マラソンだけは  
走りたい〜い ☺

10.7 倍の倍率を勝ち抜き2013年に続いて2回目の  
首都東京を颯爽と走り抜けました。

※早歩きに毛の生えたような程度ですが...

少し雨模様の中 都庁前 9時10分 号砲

私は後ろから2番目のJブロックでスタートラインを越え  
たのが号砲から17分32秒後。

新宿から飯田橋、皇居、品川でユーターンして銀座  
へ、この辺から長時間の道中なのでお腹も空きます。

でも東京のケアは素晴らしく、バナナ・人形焼・アンパ  
ン・トマト等、給食も豊富で元気百倍。

街道の一般の方からビールを勧められましたが、泣く

く泣く断念(ビールは終わってからの楽しみ)  
浅草を折り返してスカイツリーを左手に見ながら再び  
銀座、築地、佃大橋の上り坂を大音響のロッキーのテー  
マ曲に励まされて東京ビッグサイトへ無事ゴール。



見事 完走

公式タイム5時間28分02秒  
NETタイム5時間10分30秒  
お祭り気分楽しかった  
〜♡

次回は第10回記念大会  
ですので、皆さんもぜひ挑  
戦してみてください。

もちろん私は来年もエント  
リーします。

### JSCA千葉役員会組織一覧

代表役員	★ 担当三役	◎ 委員長	総務・会計委員会	広報・会員委員会	秋山 秀之
代表 向後 勝弘	技術・研修委員会	◎ 委員長	★ 佐藤 暢彦	★ 佐藤 暢彦	依田 実
副代表 市原 嗣久	★ 市原 嗣久	★ 向後 勝弘	◎ 菅谷 修作	◎ 西澤 博文	木村 将士
〃 佐藤 暢彦	◎ 加藤 義道	◎ 富島 誠司	榎山 誠治	明智 孝夫	関 和弘
(会計)	長内 光雄	◎ 飯島 宏治	榎原 裕繁	高橋 悟	豊岡 重人
監事 齋藤美佐男	竹下 章治	木原 碩美	園部 隆夫	齋藤 利彦	高橋 千絵
〃 園部 隆夫	柴田 孝行	齋藤美佐男	ホーム・レジ委員会	遠竹二三夫	木村 真弓
顧問 飯島 宏治	涌井 栄治	園部 隆夫	★ 佐藤 暢彦	園部 隆夫	小川 夏香
〃 真崎 雄一	貞弘 清英	真崎 雄一	◎ 加藤 義道	若手研修推進WG	山下 友
〃 木原 碩美	西原 幹夫	竹下 章治	貞弘 清英	◎ 西原 幹夫	阿部裕太郎

### JSCA千葉役員会議事録抜粋(菅谷)

<b>平成26年度</b> <b>第1回(平成26年4月17日)</b> (1)平成26年度JSCA千葉総会 ・講演会の準備等について (3)千葉県六団体主催の建築展準備 について (4)賛助会費の増額について <b>第2回(平成26年5月19日)</b> (1)JSCA法人化25周年記念行事につ いて (2)JSCA千葉新役員増員について <b>第3回(平成26年6月3日)</b> (1)新役員の役割担当について	(2)千葉県鍼灸工学会との意見交換 会について (3)賛助会員との技術情報交換会に ついて <b>第4回(平成26年7月16日)</b> (1)千葉県主催の応急危険度判定に ついて (2)千葉県建築学生賞の委員選出に ついて (3)構造設計、耐震診断依頼について <b>第5回(平成26年9月9日)</b> (1)千葉県建設技術センターとの意 見交換会について	(2)JSCA千葉研修懇親旅行について <b>第6回(平成26年10月20日)</b> (1)JSCA千葉新年会について ・講演会講師依頼について (2)新会員(賛助会員)承認について <b>第7回(平成26年11月19日)</b> (1)JSCA千葉新年会について (2)千葉職業能力開発短期大学の 事業主推薦開始について <b>第8回(平成26年12月14日)</b> (1)JSCA千葉新年会について (2)千葉県建築士会主催の液状化講 習会について	<b>第9回(平成27年1月26日)</b> (1)岡部榊千葉工場/構造実験センタ ー見学会について (2)県有建築物の耐震化状況につ いて <b>第10回(平成27年2月23日)</b> (1)鍼灸工学会見学会について (2)平成27年度JSCA千葉総会・講演会 について (3)若手向け勉強会について <b>第11回(平成27年3月23日)</b> (1)JSCA千葉総会資料作成について (2)セメント工場見学会について
---	--	--	---



# JSCA千葉ニュース(春)

発行 一般社団法人 日本建築構造技術者協会 JSCA千葉(広報・会員委員会)

〒261-0821 千葉市中央区若草1-2-35 (株)向後構造設計事務所 内 TEL043-225-2181 FAX 043-264-3046

## JSCA千葉 2015新年会 記念講演会、懇親会の報告

(有)MASA建築構造設計室 涌井 栄治

JSCA千葉 2015新年会が、平成27年2月9日(月)三井  
ガーデンホテル千葉にて開催された。

午後4時~6時は、記念講演会として、早稲田大学創  
造理工学部建築学科 教授 曾田五月也先生により「過  
酷な地震動への備え—いろいろと思う事—」というタイト  
ルでご講演をいただいた。

講演会は、JSCA千葉会員、賛助会員企業の方々の  
他、行政関係や関連団体の方々など 130 名を超える出  
席者の中、JSCA千葉副代表の市原嗣久氏の司会によ  
り開催された。

講演に先立ち、JSCA千葉代表の向後勝弘氏より、  
今年は阪神大震災より20年という節目であり、建築構造  
に携わる方々に地震への対応を改めて考える機会を設  
けられればこの講演会が企画されたことが述べられた。

JSCA・千葉専門委員会の真崎雄一氏から、曾田先  
生の研究紹介がなされた。

曾田先生のご講演は、1995年兵庫県南部地震、2011  
年東北地方太平洋沖地震と昨今震度7クラスの過酷な  
地震が観測されるようになったが、現状の設計法  
はこのクラスの地震を想定して作られていない。特に軽  
量構造による小規模住宅に対しては不十分である。

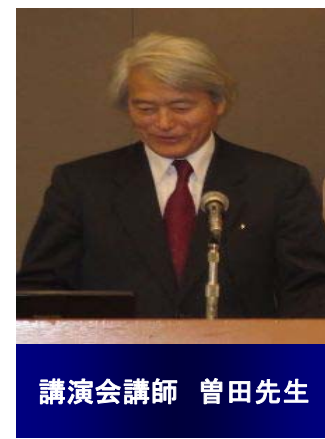
今後も震度7の地震が発生する可能性があることか  
ら、このクラスの地震に対してのヒントになればとの主旨  
であった。震度7の地震は現状の建築基準法で考えら  
れている速度入力の2倍、エネルギーでは4倍にもなる。  
この入力に対し強度型の耐震構造を選択すると強烈な  
応答加速度を生じさせてしまう。

一方、オイルダンパー等のエネルギー吸収部材  
を使用した制振構造では、建物を倒壊させず尚且つ  
応答加速度を抑制し得ることが示された。

配布資料には各種のエネルギー吸収機構や滑り基  
礎構造など、盛り沢山の研究成果がまとめられてい  
たものの、十分なお時間を準備できず全てをご紹介  
頂けなかった。

曾田先生には申し訳ありませんでしたが、参加者  
には有意義な時間となったことと思います。

(2面につづく)



講演会講師 曾田先生



記念講演会場



(1面からのつづき)

講演会終了後、会場を移動し引き続き午後8時過ぎまで懇親会が開催された。懇親会は、講演会同様130名を超える出席者を賜り、JSCA千葉副代表の佐藤暢彦氏の司会により開催された。

向後勝弘代表より、構造計算適合性判定制度の改正や県内の耐震補強物件は今年までであること、今後の取組みについてなどの紹介があった。

JSCA本部副会長の金田勝徳氏からは、建設物価の高騰により構造設計料のコストダウンが求められる一方で、一層の安全性が求められていること、昨年のJSCA 25周年記念事業では今後のJSCAについてのパネルディスカッションがあったことが紹介された。

千葉県県土整備部建築指導課 作田重 課長からは、耐震改修の現状や建築基準法の改正が6月までに開始されることが紹介された。

千葉市都市局建築部 櫻田武 部長からは、行政の耐震改修物件は終了するが、戸建てや沿道建築物の改修物件は多く残されておりご協力を頂きたいとのお願いがあった。

続いて、千葉県建築士会竹江文章副会長により乾杯の発声を頂いた。

中盤では賛助会員の紹介と音楽グループ「peso」のライブステージがあった。ライブステージでは途中から園部隆夫前代表(ドラム)と佐藤暢彦副代表(ベース)もメンバーに加わり、会場は一段と盛り上がった。

最後に市原嗣久副代表の発声で締められて、懇親会は盛大の内にお開きとなった。



懇親会



懇親会



懇親会

「保有耐力接合」そのままに、ベースパックが生まれ変わります!

**ベースパック**  
フルモデルチェンジ  
□150 ~ 300 を刷新

設計価格ベースで  
**最大25%**  
コストダウン

**配筋性**  
向上

**回転**  
剛性値  
アップ

当社従来品比較

お問い合わせ先



**岡部株式会社**

〒131-8505 東京都墨田区押上 2-8-2

TEL: 03-3624-5336 URL: <http://www.b-pack.net/>

岡部(株)千葉工場/構造実験センター 見学日誌  
(株)向後構造設計事務所 斎藤 和樹

2015年3月5日、岡部株式会社様の御好意で野田市にあるベースパックの工場を見学させていただきました。

柱脚やブレースの実験を行う「構造実験センター」とベースパックの材料加工から、出荷前の状態になるまでの製造ラインを確認できる「工場棟」を見学させて頂き、スケールの大きさに大変驚きました。

まず見学させて頂いたのは構造実験センターです。

試験体は設置されていませんでしたが、原寸大で作成した鉄骨フレームに水平力と垂直引張力を同時に与え引き抜き状態を再現し、柱脚部の性状を確認できるという二軸試験器がありました。同じ試験器で、杭頭曲げや風車の縮小モデル等の実験もしているそうです。

力をかけるアクチュアターの最大加力は2,000kNで、最大600mmまで変位確認が可能ということで、柱脚部(コラムとベースプレートの接合部)で壊さないという考えの基、評定取得の礎になっているのがこの試験場なのだなと感じました。

試験体を固定する側には、高さ8m、厚さ2.5mの耐力壁がそびえ立ち、床版は1.5mの耐力床で構成されており、学生時代に研究で使用していた引張試験器が可愛らしく思ってしまう程でした。

次に見学させて頂いたのは、実験センターの向いにベースパックの製造工場です。入るとすぐに金属を加工する音が大きく、大声で話さないと聞き取れない程でした。

一つの機械に一人程度の割合で作業員が付いていますが、そのほとんどがプログラム入力や点検等の操作を行っている形です。加工は全て機械が自動で行っていたので、ここでもまた驚きました。

そこでは四つの火口を持った切断機で一枚の鋼板を一気に切ったり、アーム型をしたロボットがコンベアで流れてくる部材に自動的に

溶接したりしていました。

なかでも興味深かったのは転造ねじを加工する機械です。まず下引きという作業で異形鋼棒の先を平滑に整えた後、二つの回転するダイスで両側から20~30tの圧力をかけてねじ部を製造します。切削ねじとは違い、金属の繊維が残るそうです。下引きの精度が大変重要との事で、誤差は1/100mmまで管理されていました。

また、検査用ナットでねじの仕上がりを検査していて、その検査用ナットも使用期限があり、期限を過ぎるとこの検査ナットも検査を行う検査を行う。という管理体制を聞き、一定の品質を効率よく生み出し続けるというのは、このような徹底した管理があるからなのだと感じました。

工場見学後、控え室に戻るとプロジェクターを使用した説明をして頂きました。

ここ数十年の移り変わりの中で、阪神大震災では、在来工法のアンカーボルトが破断し倒壊する例が目立っていたが、東日本大震災では大船渡の事務所ビルが津波被害に遭ったにもかかわらず、主構造はベースパックも含め健全で再建された話など、技術力の向上を強く感じました。

控え室で説明を聞いている最中、近くの道路を大型トラックが通過すると震度3程度の地震かと間違うくらい、建物が揺れていたのは別の驚きを感じましたが近々茨城県下妻市に全て移転するそうです。

新しい工場でも様々な実験を行い、更なる技術の向上と発展を続けて行くのだろうと考えます。

私も日々勉強との思いで今後も進んで行けたらと思います。

最後に、この度見学会に関わっていただいた方々に感謝の気持ちを込めると共に、建設業界の更なる技術力の向上と発展を願って見学日誌とします。



集合写真



説明会